

編集後記

*私が編集する最後の「麒麟」です。第十七号となりました。

*創刊は、平成四年（一九九二）。この間、御寄稿いただきました諸氏には、心より御礼申し上げます。孤立無援、孤軍奮闘との思いがなかったわけではありませんが、経営学部にあつて、人文科学系の教員の研究発表の場をなんとか確保しておかなければ、との思いで頑張つてまいりました。多少皆様のお役に立てたとしたら、うれしいことです。教授会メンバー全員の今までの御理解を感謝いたします。有難うございました。

*七十歳の定年を五年も前に、なぜ退職を、と思われる方々も少なくないと思います。一口には言えません。様々な思いがあつてのことです。が、結局は、私自身の我儘ということなのであります。

*十七冊の「麒麟」は、神奈川大学経営学部に丸二十年間在職した私の、なによりの思い出、なによりの財産であります。何人かの御退任の先生方を、本誌によつてお送りしたことも、よい思い出となりました。

*早期定年退職までに、芭蕉論の集成を一冊、そして子規論を一冊、と思つておりますが、思い通りに行きましか、どうか。頑張つてみます。

*自由な時間が与えられたら何をするのでしょうか。当面は、存分に子規との対話を楽しみたいと思います。子規研究には、未開の分野が山のように残っています。それを思うとわくわくします。

*一番気がかりなことは、本誌「麒麟」の行方です。私一代限りの研究誌にならないことを念じております。
(鬼ヶ城)